特44
86

橘流筑前琵琶

宗家 橘旭翁先生校閲

赤珣源藏

大阪 時

完

265
109

074690-001-8

特44-86

橘流筑前琵琶〔稽古本〕

橘 旭翁／閲

M43
CEJ-0209

孟子中庸

意緒

明治
43. 6. 27
内交

己酉初夏

柳江題

九州直至
高義

赤垣源藏

外園作

黄昏告る鐘の音も
凍りがちなる寒風に
連て降り来る白雪の
積るうらみの君の仇
報ふは今宵子の刻と
盟ふ心の赤垣が
人目欺く酔どれの
威儀亂したる千鳥足

阿彌陀かづきの破れ笠に
玉を包みし襤褸かも
哀別離苦のぐゐ呑の
柴田が宅の勝手口
如何が暮させ給ふらん

赤き合羽をまとひしは
これぞ一世の別れぞと
醉にかくしてとぼ〳〵と
今日の寒さに兄上は
取次せよと命ずれば

許多の奴婢は顔見合せ
眉をひそめて鼻に袖
御内室には御病氣と
いとも本意なく思ひしが
推ゝ来ぬる德利酒

何ツもながらの酩酊に
主人は御殿に出で給ひ
つれなき言葉に重賢は
詮なき事とあきらめつ
泪と共に飲ながら

半は盡して立ち上り
或る大名に抱へられ
思へば長き月と日の
勞はり給ひし御高恩
朝霜暮雪の折なれば
我は今回西國の
明日はまだきに立ぞかし
浪々の身を種々に
死しても忘却仕らず
必らずいとはせ給ふやう

御夫婦共に百年の
具さに申上げてよと
露の命の果敢なきを
諸行無常と響くめり
外に立ち出でて一ト雫
御壽命祈り奉る旨
殘す言葉の末にたく
さとすに似たる鐘の音は
早や小夜過ぎと赤垣が
ほろりとこぼす玉鉾の

道は迷はぬ忠心義士
身寄浮雲滄海東
久誤恩義世塵中
看花對月無限恨
散為曉天草木風
宗徒の武士に後れじと
雪を蹴立て一ト筋に
岩をも徹す桑の弓
ひき明け方や月雪の

中を命の捨て處
心も黒き炭部家の
深雪の中に引き据ゑて
朱に染めたる韓紅
天地にひゞく凱歌の
天よ川よと押寄せて
内に隠れし吉良義英を
四十七士が尖刀を
花咲く春の心地して
聲かあらぬか今の世に

赤垣源藏

語りつたへて武士の
人は朽ても消はぬ名の
榮にゆくこそ目出度けれ

鑑としもは仰がるれ
榮に行くこそ雄々しけれ

明治四十三年六月十日印刷
仝　四十三年六月二十五日發行

發行兼編輯人　大阪市東區和泉町二丁目一番地　有村彌四郎

印刷人　大阪市東區和泉町二丁目一番地　藤井護三郎　電話東四五五九番

印刷兼發行所　大阪市東區和泉町二丁目一番地　藤井改進堂　長電話東二七〇番

265
109

經濟中庸

意緒

明治
43. 6. 27
內交